

第 21 回保育部会研究委員会報告書

浜田市保育連盟会長 煙艸 のぞみ			保育部会長 松浦 清美（やさかこども園）		
開催 日時	令和8年7月28日（火）	開催場所	浜田市まちづく りセンター キッズルーム	記 録 者	おぐに保育園 山崎真由美
	14：00～16：30				
出席者	みのり第2、うみかぜ、三隅、くもぎ、浜田ひかり、おぐに			欠席者	なし

～研究発表に向けて

◎遊び、生活と食事、異年齢交流

*異年齢交流

異年齢交流は、年長児が年少児に何かを教える関係だけではなく、0歳児と1歳児の間にも発達段階が異なる子ども同士の関わりによる異年齢関係もある。

*子どもの主体性の尊重

大人が固定観念にとらわれず考え方を变えることで、子どもの主体性を引き出すことができる。

子どもの主体性を意識した保育実践が重要であり、そのためには具体的な子どもの姿や関わりを丁寧に捉える。

*アタッチメントの理解

アタッチメントは、抱っこなどだけでなく、子どもが安心できる環境の中で保育者を「安心の所」と認識し、そこから離れて他の子どもや遊びへ関心を広げていく姿もアタッチメントの一部。

アタッチメントの対象の広がり

愛着の対象を大人から他の子どもへも広げていく。保育者は、子どもが安心して離れていけるように視界に入る位置にいることが重要です。近くにいらなくても存在を認識できれば、子どもは安心して活動に取り組める。

*食事の選択肢の提供

自分で決める経験の重要性

食べたいものや量を自分で選ぶ経験は主体性を育む。ホットケーキや豆料理など、量や中身の違いによる複数の選択肢を提示し自分で選ばせる実践。選択肢が多すぎると迷う子もいるため、数は発達段階に応じて調整する必要がある。

食事の進め方の課題

果物を先に出すか後に出すか、全部一緒に出すかなど提供方法には様々な考えがあり難しい。最終的には子どもが自分で食べることが重要で、その過程で大人が柔軟に対応することが求められる。

次回までに

◎実践記録資料の作成。

写真（発表の資料で使えるもの）準備。

USB で管理

→パワーポイントなどの作成へ

次回研究委員会

9月17日（木）14:00～

浜田まちづくりセンター

キッズルームにて